

2023年2月発行(年3回)
通巻128号

建設雇用と改善
TOKYO

2023・2
No. 128

都内の建設業に働く人の「雇用・労働・安全」関係の情報誌【テラ】

Terra

Employment & Improvement of the Construction Corporations



無事故・無災害は 一人ひとりの意識改革から

都立南多摩地区特別支援学校(仮称)(3)新築工事(三井住友建設株式会社)

みらいをつくる 建設×女性力

金城詩音さん

(株式会社不動産テトラ)

明日を担うづくり

株式会社あじま左官工芸

(社寺・文化財・エコロジー住宅の左官工事)

これだけは知っておきたい

高齢者の安全衛生対策に目標 第14次労働災害防止計画

■現場で使える天気予報
■News Digest

■TOKYO 名所ウォーキング
■東京労働局からのお知らせ

一般社団法人東京建設業協会 建設労働者確保育成事業推進委員会



現場訪問
あんぜん
最前線

都立南多摩地区特別支援学校（仮称）（3）新築工事

施工場所 ▶ 八王子市鏈水^{やりみず}2丁目88番1

発注者 ▶ 東京都 設計・監理者 ▶ (株)山下設計 施工者 ▶ 建築＝三井住友建設(株)

工期 ▶ 2021年10月14日～24年1月31日

規模 ▶ 鉄筋コンクリート一部鉄骨・鉄骨鉄筋コンクリート造4階建て
延べ約1万3,800㎡

無事故・無災害は 一人ひとりの意識改革から

東京都は、八王子市鏈水で「南多摩地区特別支援学校（仮称）」の新築工事を進めている。知的障害特別支援学校の在籍者が増加していることに加え、南多摩地区の企業就労を促すため、高等部普通科と高等部職能開発科を置く予定だ。施工場所は丘陵のため高低差があるだけでなく、マンションが近接。これらの敷地条件の下、工事による地域住民への影響を最大限縮減するよう努めるとともに、作業員の安全の確保に配慮しながら、臨機応変に対応する現場の取り組みを追った。



📍現場(左)と周辺の状況

京王相模線・多摩境駅から緩やかな坂を上ると、現場が見えてくる。およそ1万4,700㎡の面積がある敷地の背後に都立小山内裏公園^{おやまだいり}の豊かな緑が広がる一方、前面の2車線道路を挟んだ向かいには200戸以上を擁する分譲マンションが立地する。2021年12月に高低差を解消する造成から工事をスタート。取材した2022年11月末現在で進捗率が約30%に達し、躯体の配筋・型枠工事に60～70人程度が従事していた。

近隣住民への影響 最大限の縮減に配慮

所長を務める三井住友建設(株)の安野建輔^{やすの けんすけ}さんによると、向かいのマンションとの関係から、造成時には作業エリアをシートで囲って粉塵の飛散防止などに最大限配慮したという。工事車両の搬出入もマンションの前をできるだけ回避するルートを設定している。



📍安野所長



📍22年11月末現在の現場。一部の工区では3階床部分の配筋工事と型枠工事が進んでいる(全景撮影＝㈱エスエス)

よりよい現場へ、柔軟に対応

周辺への配慮は音の面も重要だ。地域住民や都と打ち合わせを重ねる中で、仕様を柔軟に変更。例えば、躯体周りのメッシュシートはマンション側を防音シートに張り替えて、騒音を9デシベル程度抑えられるようにした。採光が遮られるものの、躯体内の照明を増やすなどして作業環境を整えている。

また、型枠支保工で採用していた鋼管支柱の垂直式支保工を「コンクリート型枠水平支保梁材」に切り替え、2階部分の立ち上がりからほぼ全面導入した。撤去時に発生する音の低減が目的だったが、作業床が物で塞がってしまうことがなくなり、施工も容易なため「安全性の確保と労務の軽減につながっている」そうだ。



型枠支保工解体作業時の現場発生音の低減を期待してコンクリート型枠水平支保梁材(上)を採用。作業などのスペースを広くすることができる

個人の安全意識を醸成

安全衛生管理で特に心掛けていることとして、安野所長は「個人の意識改革の必要性」を強調した。「環



CCUS (建設キャリアアップシステム)の顔認証システムで入退場を管理している



朝礼台の横に安全帯訓練ゲートを設置



指差し確認ゲートを設けて安全意識の定着を図っている

境や設備をいくら整えても、個人の行動が伴わなければけがや事故につながる」との思いがあるからだ。このため朝礼や新規入場者教育などの機会を捉えて、現場で働く全員に「保護具一つにしても、使えと言われたから使うのではない。自分がけがをしないため

に使うんだ」と繰り返し伝えているという。

工事が進むにつれて、「鉄骨建方など高所での作業が増える」ことから、今後は「墜落・転落災害に特に注意したい」と気を引き締めた。

現場で働く人々



安井土木(株)

平居龍治郎さん とび工
(ひらい・りゅうじろう)

「職長会の会長を務めています。『危険につながる作業・箇所を一つでも見つけてなくしていく』という意識を持って、パトロールを週2回実施しています。とび工としては墜落・転落対策も欠かせません。先行手摺りを設置するだけでなく先行親綱も併用して、作業の安全性を高めています」

北島産業(株)

土屋賢一さん 鉄筋工
(つちや・けんいち)

「職長同士でのチームワークを大切にしています。これまでの経験から、コミュニケーションを深めることが現場の環境整備や安心・安全な施工につながると実感しているからです。若手とベテランの橋渡しとなれるよう心掛けています」



八重洲工業(株)

高橋亜都さん 空調設備工
(たかはし・あさと)

「監督者として現場管理を担当しています。さまざまな工種の職方さんとコミュニケーションを取って段取りを組むことが監督業には欠かせないスキルですね。若手の中には意思伝達が得意でない人も多く苦慮することもあります。業界を担う人材を育成できるよう、日々努力しています」

～みらいをつくる～ 建設×女性力

〈総合建設業〉
株式会社不動テトラ（中央区）
金城詩音さん
（きんじょう・しおん）



初めての独り立ち 楽しみながら程よい緊張感で

きっかけは就職説明会で目にした巨大な杭打ち機の写真。「カッコいい、こんな機械を自分で動かしたい」と、地元沖縄県を出て2019年4月、不動テトラに入社した。先輩オペレーターに付いて技術を学び、2020年に初めて実機を操作した時は「まさに憧れの瞬間」。と同時に「自分のわずかな操作で大型の機械を動かせることに怖さも感じた」。

昨年10月に現場入りした橋梁の架け替えに伴う地盤改良工事で、初めて一からオペレーションを任された。エアでスラリーを霧状に噴出し、大径かつ高品質な改良体を造成するCI-CMC（深層混合処理）工法を用い、深さ31mの地中に杭を打つ。狭小地での施工となるため小型の機械を操作し、誘導係と緻密なコミュニケーションを取りながら正確な位置に打設する。1本打つのに約2時間半かかり、完了予定まで残すはあと約75本。「自分がミスをする则ち後の工程が遅れてしまうので、プレッシャーを感じる」。しかし、入社時に抱いた思いを胸に「あまり意識し過ぎず、機械を操作できることを楽しみながら程よい緊張感で作業に臨むようにしている」と話す。

現場では常に運転席に在るため、周囲の状況を把握しながら他者とコミュニケーションを取るのも一苦労だ。「周りの音が聞こえづらいので大きな声で話しかけないといけない。声を張るのが得意な性格では

ないので大変」。事故やミ

スを防ぐため、作業に当たっては「思い込みで動かない」ことを心掛けている。「ここに人はいないだろう、声は聞こえているだろうという自分の思い込みが事故の元になる」。気を引き締める毎日が続く。

3月にはこの現場を終える。「独りで現場をこなしたという経験を糧に、自分の仕事に自信をつけたい」。今後の目標は、より精度の高い仕事をするため、事前準備など細部に気を配れるようになること。将来的な土木関連資格の取得も見据え経験を積み、「早く一人前になる」と意気込む。



憧れの大型機械を操作



真剣な表情から緊張感が伝わる

現場で使える天気予報



季節の変わり目に 起こりやすいヒヤリハット

株式会社ライフビジネスウェザー 気象予報士 新井彩夏 (あらい あやか)



気温が徐々に上がりはじめ、春の兆しを感じられる頃となってきました。この時期に注意したいのが、ヒヤリハットです。

ヒヤリハットとは、「重大な事故には至らずに済んだものの、事故になる可能性のある出来事の発見や認知」を指す言葉で、工事現場で作業する上では聞き馴染みのある言葉だと思います。

ヒヤリハットが起こる一因として、注意力散漫があります。注意力が散漫になる原因の一つに、気温や気圧などの気象変化によって、自律神経の乱れが起こることが、医学的な研究から分かっています。例えば、一日の中での気温差が10℃以上あったり、気圧差が5hPa以上あったりする日が、身体に負担となりやすい条件です。また、前日より気温が5℃以上変動する日や、気圧が10hPa以上変化する日、湿度の変化も体調に影響を与えます。

春は、日本上空で冬の空気と春の空気がせめぎ合うため、気象変化が大きい季節です。過去3年間の東京の一日の中での気温差が10℃以上の日数を見ると、

2月から5月頃にかけてが多くなっています。図1

また、過去3年間の2月において、一日の中での気圧差が5hPa以上ある日数は20日前後にのぼり、気圧差が30hPa以上になる日もあります。朝晩と日中の寒暖差が大きくなると、体温を一定に保とうとする身体の動きが過剰になり、疲労が蓄積しやすくなるため、特に注意が必要です。気温変化が大きい日は低気圧が発達するサインでもあります。

天気予報を見る際は、雨や晴れの天気マークだけではなく、気圧や気温、湿度の変化なども確認してみましょう。「急速に発達する低気圧」や「気温変化が大きい」という言葉を見聞きする場合、ケアレスミスが起こりやすい日として把握し注意することで、ヒヤリハット対策につながります。また、できる限り、日頃から自律神経を整えておくことも大切です。作業前や休憩中にストレッチや深呼吸を行う、日頃から湯船に浸かる習慣をつける、食事に気を遣うといった日々の習慣を、見直してみましょう。図2

図1

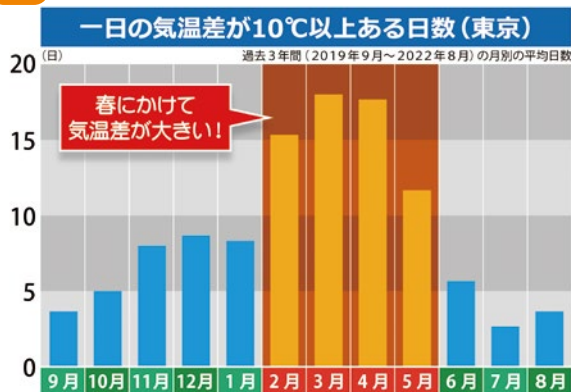


図2



処遇改善と教育拡充で伝統技術を継承

株式会社あじま左官工芸

あじま左官工芸(本社・葛飾区、阿嶋一浩社長)は、世界遺産に登録され、国宝にもなった旧富岡製糸場の保存修理をはじめ、成田山新勝寺の総門建立や、駿府城公園の坤櫓^{ひつじさるやぐら}の復元など、数多くの文化財や社寺建築の左官工事を手掛けてきた。日本の伝統的な左官の技を継承する一方、同社では、職人の給与形態を日給月給制から月給制に変えるなど、これまでの常識にとらわれない処遇改善も行っている。伝統技術の担い手の確保・育成に向けた先進的な取り組みを取材した。



阿嶋社長

古くからの日給月給制だと、年末年始の休みによって1月の職人の給料は、普段の月の半分になることもあった。職人の世界の常識ではあっても、従業員のがっかりした顔を見るのは、阿嶋社長にとってもつらかった。若者の考え方は昔とは変わってきている。若い職人に聞くと、「日給月給で稼ぐより、収入が安定する月給の方がいい」と答えた。

教育に重点

軒が長く出ている社寺建築の左官工事では、雨の日でも仕事を休むことは少ない。また、社寺や文化財建築を多く手掛ける同社では仕事量が比較的平準化していた。それでも仕事のない日はある。そんな日は、「資格取得や技を磨くための教育に充てればいい」と考えた。そして2020年度から月給制の導入に踏み切った。

入職した若者の定着率を高めるためには、職人としての自覚と誇りを持たせることがポイントになると阿嶋社長は思っている。「3年我慢して、左官技能士の資格を取れば仕事に対する姿勢も変わってくる」

各種資格取得や技能の向上のためにも、給料をきちんと払い、研修や講習、練習にじっくりと取り組める就労条件を整えることは重要だ。同社では、職人の知見を広げるため、漆喰や荒壁などの材料工場の見学なども積極的に行うことにした。

さらに、職人の仕事に対するモチベーションを高めるため、段階的にキャリアを評価する独自の社内認定制度を創設した。手元、若手職人、職長、現場代理人、建設マイスターとキャリアステップを定め、キャリアごとに求められ



国指定の重要文化財である成田山新勝寺額堂の耐震補強整備での屋根漆喰工事



↑ 埼玉県川越市の市指定文化財である旧川越織物市場の復元工事で、下塗りの荒壁土を塗る若手の職人

る知識やスキル、取得すべき資格を明示。これらを給与にも反映させるようにした。

段階的にキャリアを認定することで、目標を設定しやすくし、自己肯定感を高め、会社への定着率を高めるのが狙いだ。

また、左官職人が使う^{こて}鏝は高価だ。新規入職者はこれまで、自腹で鏝を買いそろえる必要があったが、大きな負担になる。そこで、鏝をセットで3年間貸し出す社内制度も2020年度からつくった。

職人の技の継承はこれまで「見て覚える」ことが常識とされてきたが、今の若者は、そんな古い常識にはなじめない。一方、同社がこれまでに文化財などで手掛けた施工要領を将来に残していく必要もある。そこで、既存の教科書にある技術や、同社が将来に受け継いでいくべき工法などを総合的にまとめた、独自の教育資料も教材として作成した。

漆喰の名人

同社の創業は、1921（大正10）年ごろの阿嶋社長の祖父の代にさかのぼる。祖父は、屋根の漆喰や看板建築の左官の名人といわれていた。

その後、父親の代には、社寺建築のほか、マンションや住宅など一般建築を主に手掛けるようになっていた。しかし、1980年代前半を中心とする「建設業の冬の時代」と呼ばれた時期、家業の経営は厳しかった。元請けからの指値発注が横行していた。大学を卒業し、家業を立て直すために仕事に就いた最初の役割は、資金繰りのための銀行との交渉だったと阿嶋社長は振り返る。「こんなにきついのか。大変な業界だと思った」と言う。

困難を切り抜ける切り札となったのは、昔から評判の良かった社寺建築の仕事と、腕の良い職人の存在



↑ 国宝で世界遺産の旧富岡製糸場の保存修理工事で、屋根漆喰を手掛ける女性若手職人

だった。社寺建築に仕事の重点をシフトしようと考えた。社寺専門の設計事務所に積極的に営業を行い、実績を拡大した。さらに、技術力を生かした文化財の保存・復元工事の受注に向けた営業にも力を注いだ。

文化財の仕事は、通常の左官工事とまったく違う。補修を行う際、壁の一部を丁寧に剥がして先人の仕事を調べる必要がある。文化財に仕事を拡大した最初の頃は、「こんな仕事をとってくるな」と言う職人もいて、大喧嘩になることもあった。

現在では、伝統技術に興味を持って入職してくる若者や美大生も多い。重要文化財の仕事だと言えば、仕事に参加したいと集まってくる職人のネットワークも全国にできている。

若者に変化

しかし、コロナ禍が始まった後のここ1～2年、入職してくる若者が変化してきたと阿嶋社長は感じている。定着率が極端に悪くなったのだ。コロナ禍以前は7～8割は定着していた。しかし、2021年度以降、6人が入社したものの1人しか残っていない。こういった変化は同業者からも聞く。

若者の変化の原因は分からない。25歳以下の若者が定着しないのなら、採用の重点を25歳以上の社会人経験者に置こうかとも考えている。担い手の確保・育成に向けた模索と取り組みはこれからも続く。

株式会社あじま左官工芸

会社概要

住所 ● 東京都葛飾区青戸8-19-11

創業 ● 1921（大正10）年ごろ

事業内容 ● 社寺・文化財・エコロジー住宅の左官工事

資本金 ● 1,000万円

高齢者の安全衛生対策に目標

Terra編集部

労働災害の撲滅に向けて、国と事業者、労働者が2023年度から5年間にわたって取り組むべき内容を示す、第14次労働災害防止計画（14次防）の検討が進んでいます。全産業では、死傷災害の発生件数に増加傾向も見られ、さらなる安全対策の深化が欠か

せません。このため、14次防では取り組み事項ごとに目指す指標を数値で設定。さらに、近年増えている高齢労働者の対策を強化するなど、労働環境の変化にも対応しようとしています。

死傷者数が増加傾向に

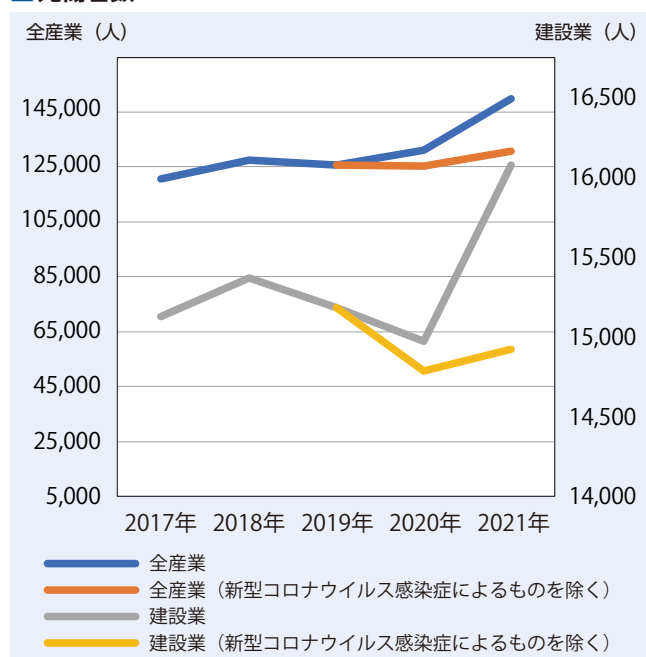
まずは建設業の現状を見てみましょう。2018年度から本年度までの5年間を対象とした現行の13次防では、2017年比で2022年までに死亡災害を15%以上減少させるとの目標を立てていました。しかし、2021年の死亡者数は288人で、10.8%減にとどまりました。全産業中では最多です。

さらに、休業4日以上死傷者数は1万6,079人で6.3%増えてしまいました。新型コロナウイルス感染

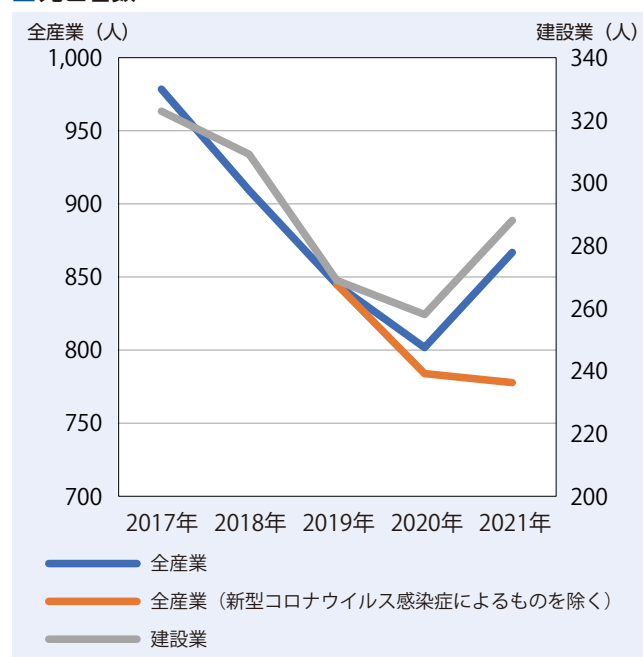
症の影響を除いても1万4,926人で、1.3%の微減にとどまります。

全産業では死傷災害が24.5%も増えるなど、深刻な状態です。厚生労働省は、60歳以上の高齢労働者の割合が増えたことが影響したと分析しています。今後、人口減少により労働者に占める高齢者の割合はますます大きくなると見られ、対策を14次防の重点事項に位置付けることとしました。

■死傷者数



■死亡者数



目指すべき「指標」を設定

14次防では、目指すべき指標を定め、その進捗^{しんちよく}に基づいて適宜取り組みを見直す方向で議論が進んでいます。

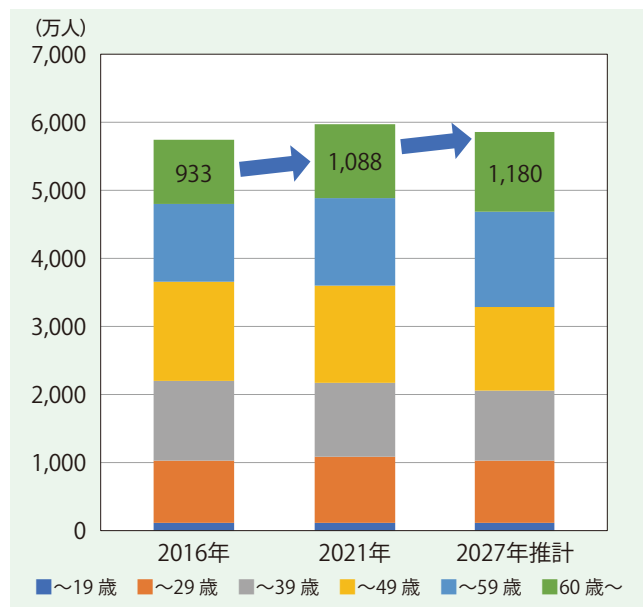
では、主要な課題の一つである、労働者の高齢化にはどう対応するのでしょうか。2022年12月に厚労省が提示した14次防の案では、「高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」(エイジフレンドリーガイドライン)に基づく作業方法の見直しや職場環境改善に取り組む事業場の割合を2027年までに50%以上とする「アウトプット指標」を設定。これにより、60歳以上の労働者の死傷災害発生率の上昇に歯止めをかけるという「アウトカム指標」の達成を目指します。

建設現場でも増えている外国人労働者については、母国語に翻訳された教材など、分かりやすい安全衛生教育に取り組む事業場の割合を2027年までに50%以上とします。

建設業については、災害の約4割を占めている墜落・転落災害の防止に向けたリスクアセスメントの実施率を2027年までに85%以上とする案も出ました。足場点検の確実な実施、一側足場を使用できる範囲の明確化などもポイントになりそうです。

石綿対策では、専門性のある者による事前調査や、事前調査結果に基づくばく露対策の確実な実施を事

■雇用者数の推移と見込み



業者に求めます。発注者には配慮義務があることの周知も徹底します。

雇われて働く労働者だけでなく、一人親方などの個人事業者の安全衛生対策も大きな課題です。有害物質による健康障害防止については労働者であるか否かを問わず、保護措置を講じる必要があることを周知します。また、国の検討会で進む個人事業者保護の議論を踏まえ、発注者や事業者が取り組むべき内容を考えていきます。

人材確保にも直結

厳しい経営環境を背景に、安衛対策に遅れが見られる中小事業者も少なくありません。14次防では、安全教育や職場環境の整備が人材確保に、ひいては経営にプラスになるという観点を取り込もうとしています。こうした認識を周知し、また社会的に評価される仕組みの整備にも国として取り組むというのです。

このための費用の助成も取り組み事項に挙げました。工事などの発注者に対し、安全で衛生的な作業をはばむ条件の排除や、必要経費への配慮も働き掛

けることとしています。

また、建設業労働災害防止協会は、第14次防をベースとして会員と協会の目標、具体的な活動内容を示す第9次労働災害防止5カ年計画を策定します。

これらの計画に基づく取り組みが真に効果を発揮するには、事業者だけでなく労働者、そして発注者にもその内容と意義を周知し、理解してもらうことが大切です。誰もが安全で安心に働くことのできる建設業を実現するため、安全衛生の意識をさらに高めていきましょう。

総武線 両国— 御茶ノ水間

東京まち歩きライター
鈴木伸子

すずき のぶこ

文筆家・東京まち歩きライター

雑誌「東京人」の元副編集長。

日々東京を徘徊中、執筆中。女鉄道マニアの修行中でもある。

著書に『シブいビル』、『山手線をゆく、大人の町歩き』など。

去年は鉄道開通150周年。そして、今年は関東大震災100周年。1923(大正12)年の大震災で壊滅的な被害を受けた都市・東京では、当時高まりだしていた近代化の波に乗り、震災復興で新たなモダン都市を構築しようという動きが一気に実現した。

大震災の2年後、現在の山手線はすでに環状運転をスタートさせていたが、総武線は、その時点ではまだ両国駅(当時は両国橋駅)が終着駅で、都心方面に直通していなかった。

両国から御茶ノ水までが延伸すると、中央線と総武線の直通が可能になり、東京の東西を横断する幹線鉄道となる。そうした計画は明治時代から存在していたが、大規模な震災復興計画で、ようやく実現することになった。

線路の建設は、1931(昭和6)年から失業救済事業として開始され、翌年には完成。1932(昭和7)年7月1日から直通運転が開始された。

隅田川橋梁、既存高架を跨ぐ高架橋など 最新の土木構造物を建設

両国は江戸随一の盛り場で、明治以降も房総方面への交通・流通の拠点となっていた。

現在の両国駅駅舎の竣工は1929(昭和4)年。東京駅は1914(大正3)年に開業していたが、両国駅は、明治・大正時代には、新橋、上野、飯田町とともに東京の四大停車場とされ、昭和初期においてもそれなりの存在感を示していた。

その1929年築の駅舎には、今も房総方面への頭端式ホームが残り、終着駅時代の面影を残している。かつての改札前待合室は、現在は店舗や飲食店に転用されているが、その大空間には往時の雰囲気を感じることができる。

両国駅から線路沿いに都心方面に向かうと、すぐに隅田川橋梁に行き着く。プレートガーダーとアーチを組み合わせたランガー桁形式を日本で初めて採用した橋梁で、鉄道省出身の土木技術者・田中豊が設計を担当。田中は震災復興事業で、このほかにも隅田川の清洲橋、永代橋の設計も担当しており、隅田川にそれぞれ異なるデザインの橋を架けることにこだわったようだ。

隣り駅、浅草橋のホームでは古レールを用いた優美な架線柱が見もの。駅の高架下を西側・秋葉原方向に歩くと、アーチ状にそりあがったカンチレバー構



① 1929年築の両国駅の駅舎。房総方面への終着駅の面影を留めている



② 総武線隅田川橋梁。田中豊が設計を担当したランガー桁様式



③ 浅草橋駅構内の架線柱は、古レールを用いている



④ 浅草橋駅ホームを支えるカンチレバー構造。ガード下は問屋街になっている



↑秋葉原駅前、中央通りを跨ぐ総武線の高いガードはアキバのランドマーク



↑秋葉原駅近くの高架下にはゲーム店やファストフード店が並んでいる



↑秋葉原-御茶ノ水間で外堀通りを渡る松住町架道橋



↑松住町架道橋の先で電車は神田川橋梁を渡り御茶ノ水駅へ向かう

造の支柱がホームを支えている。この構造物は昭和初期の人々にとってもモダンなものに映ったことだろう。

浅草橋から秋葉原駅に向かう列車に乗ると、徐々に線路が高度を上げていくことを感じる。秋葉原駅の総武線ホームは、すでに開業していた山手線の高架の上を跨ぐため3層の高架となっている。

そのため、最上層の総武線ホームには、1932年当時最新だったエスカレーターとエレベーターが設置され、これは当時の東京名所になったという。

デザイン、技術ともに 戦前の集大成と言える土木遺産

秋葉原から御茶ノ水へと線路沿いに歩くと、アーチ型高架の下には電気やパソコン、ゲーム、ファストフードなどの店が入居し、今どきのアキバらしい街並みが続いている。その先の外堀通りを、線路は松住町架道橋で越える。これは、鉄道橋として最初のタイドアーチ橋という弓を弦で結んだような構造。

さらにその先の神田川を橋梁で渡り、線路は中央線と合流し御茶ノ水駅のホームへと入る。

そのホームの秋葉原側の先端からは、総武線が線路を上り下りしながら、神田川を渡り松住町架道橋を渡ってゆく風景が見える。

この両国-御茶ノ水間の線路は、戦前の高架橋の技術とデザインの集大成とも言える区間。また、この開通に合わせ、両国-御茶ノ水間は電化され、電車の運転も開始された。

御茶ノ水駅では、ホームと線路が、1927(昭和2)年築の聖橋の下を通っている構造も興味深い。駅舎は現在改良工事中で、震災復興時の建物が失われてしまったのは残念だが、バリアフリー化され、2024年に完成の予定。

今回紹介した区間の鉄道風景は、今眺めても、100年前の震災からの復興とモダン東京を感じる。列車内から楽しむだけでなく、駅のホームから眺めたり、線路沿いを歩いて存分に堪能してほしい。



↑御茶ノ水駅から秋葉原方面を眺めると、今も帝都復興の面影を感じる



↑御茶ノ水駅の秋葉原側、総武線と中央線ホームの間には微妙な段差が存在



↑聖橋は昭和2年完成。御茶ノ水駅の構造と一体化している



↑現在リニューアル工事が進む御茶ノ水駅



↑御茶ノ水駅西口には1932年築の駅舎が残るが、こちらも解体予定

CCUS100万人超え レベル別賃金検討へ

11月

建設キャリアアップシステム (CCUS) の登録技能者数が2022年10月末時点で102万4,269人と100万人を超え、全国に309万人いるとされる技能者の3人に1人が利用する水準になりました。

斉藤鉄夫国土交通相は2022年11月の会見で、今後の展開について「技能経験に応じたレベル別の賃金目安を示し、職種ごとに賃金が上昇していくよう促していく」と強調しました。

国交省では今夏までにレベル別の賃金目安を具体的に示す見通しです。

建設業の賃上げ額 「8,101円」でトップ

11月

建設業従事者の平均賃金の改定額(2022年)が8,101円アップで、全産業中トップだったことが厚生労働省の調査で分かりました。賃金改定率はプラス2.3%で、前年度から0.3ポイント上昇。労働者1人平均の賃金引き上げを実施したか、または予定している建設業の割合は95.4%で、業種別では「学術研究、専門・技術サービス業」に次いで2番目に高い水準となっています。

東京労働局長 時間外労働削減の成友興業を訪問

11月

厚生労働省東京労働局の辻田博局長は、管内の建設業から時間外労働削減の「ベストプラクティス企業」に選んだ成友興業(株)の城南島事業所(大田区城南島)を2022年11月に訪れ、同社の人材確保や女性活躍などを含む働き方改革の取り組みについて、細沼順人社長や従業員と意見交換しました。同月展開した過重労働削減キャンペーンの一環です。辻田局長は「幅広い対応で成果を上げている。多くの建設業にとって有益だ」と評し、同社の取り組みを広く発信する考えを伝えました。



成友興業(株)では打刻用スマートフォンの貸与や労務管理システムの導入・改造、ICTを活用した現場作業の効率化などで時間外労働を抑制。とりわけ現場作業はドローンを使った測量やICT建機の導入、書類作成などを担うバックオフィスの整備などによって、従来よりも労働時間を削減できたそうです。

また、新入社員をサポートするメンター制度を整えたことで、かつておよそ2割に上った1年以内の退職者が2021年4月新卒入社ではゼロになったといいます。

協力企業に対しても▽資格取得の費用助成▽労務経費の引き上げ、100%現金支給▽月給制への移行指導といった人材面での支援策を講じています。

東京労働局長 中野区新庁舎の現場をパトロール

11月

厚生労働省東京労働局の辻田博局長が2022年11月に中野区新庁舎整備事業の現場をパトロールしました。「年末・年始SafeWork推進強調期間」(2022年11月21日~2023年1月31日)の取り組みの一環。都内の建設業災害防止団体のトップと共に現場に赴いて、安全対策の実施状況を確認しました。



中野区新庁舎は中野体育館の跡地など(中野区中野4ノ11)に地下2階地上11階建て延べ床面積4万7,286平方メートルの規模で建設します。竹中・協永・明成・武蔵野・INA特定JVが実施設計と施工を担当。2024年2月末の完成を予定しています。

現場では、総括作業所長による安全行動宣言の下で▽火災事故対策▽公衆災害対策▽コロナ対策一などの活動を展開。墜落・転落災害を防ぐため、安全帯の使用やダブルフックの掛け替えを訓練するヤードを場内に設けたりもしています。

辻田局長は、安全の確保に向けたさまざまな取り組みを評しつつ「労働災害防止活動を継続し、無事故無災害で竣工を迎えられるように、そして全国の建設現場の模範となることを期待する」と激励。これを受けて、職長会の代表が「決められたルールと手順を守るとともに、業者間の垣根を越えて声掛け運動を実施し、危険の芽を摘み取っていく」と決意表明しました。

建設業の働き方改革支援 助成金を新設

12月

厚生労働省は2024年度から建設業でも時間外労働の上限規制が始まることを踏まえ、週休2日制の導入や36協定の見直しに取り組む企業に必要経費を助成します。このため「働き方改革推進支援助成金」(適用猶予業種等対応コース)を新設することとし、2023年度当初予算案に42億円の事業費を盛り込みました。

週休2日制の導入では、4週4休から4週8休まで週休を1日増やすごとに25万円を支給。さらに、36協定の見直し幅に応じて最大250万円を支給します。

助成対象の費用は、就業規則の作成・変更や外部専門家によるコンサルティング、労務管理用機器の導入など。効率向上につながる設備、機器の導入にも充てることができます。

また、2023年度当初予算案には、中小・小規模事業者の働き方改革支援事業に37億円を計上。建設業に特化した相談窓口も設け、専門家によるコンサルティングや研修を行います。ハローワークでも人材確保コーナーを拡充し、求人者への助言や企業とのマッチングを強化していきます。

政府が掲げる「人への投資」の一環で、一連の施策を含む人材の育成・活性化に前年度比22.5%増の1138億円、賃上げ支援には12.6%増の107億円を投じます。

! 3つの転倒予防

オットット

転倒による労働災害は最も多く、**全体の約25%**

転倒によるケガの**約6割**が**休業1か月以上**のケガです!!

① 作業場所の 整理整頓



② 作業場所の 清掃



③ 毎日の 運動



▶ 転倒災害は、**大きく3種類**に分けられます。
皆さまの職場にも似たような危険はありませんか？



厚生労働省では「STOP! 転倒災害プロジェクト」を推進しています。
具体的な対策はこちらをチェック!



東京都建設系高校生作品コンペティション2022 受賞作品決定のお知らせ

2022年12月8日～10日に開催された同コンペティションにおいて、選考の結果、下記の通りの受賞作品が決まりましたのでお知らせいたします。

〈東京建設業協会会長賞（1点）〉

作品名	部門	学校名・学年	名前
木魚	工芸	東京都立工芸高等学校 定時制課程インテリア科 4年	平本 大智



会長賞「木魚」

〈最優秀賞（6点）〉

作品名	部門	学校名・学年	名前
空と海の美術館	模型	東京都立蔵前工業高等学校 建築科 3年	飯島 優輝 飯田 百 伊藤 悠哉 海東 鷹春 小島 統生 坂本 蒼 櫻井 弓季彩 田中 結翔
Point do rencontre 『ポワン ドゥ ランコントル』	製図	東京都立蔵前工業高等学校 建築科 3年	飯島 優輝
2階建専用 住宅設計図 (C-C断面図)	製図模写	東京都立蔵前工業高等学校 建築科 2年	川原 恵実
3年卒業庭園制作 (パネル展示)	実習	東京都立農芸高等学校 緑地環境科 3年	緑地環境科3年 (代表:田中 天馬)
History&Culture	家具	東京都立工芸高等学校 インテリア科 3年	眞嶋 寿里
未来のまち TOKYO	ポスター	東京都立墨田工業高等学校 建築科 2年	田中 小葉



作品展示会場の様子

上記の他、優秀賞7点、CCI東京特別賞7点、審査員特別賞9点も選出されました。

2023年2月発行(年3回発行) No.128

Terra —建設雇用と改善TOKYO—

発行：一般社団法人東京建設業協会
建設労働者確保育成事業推進委員会

〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-5-1

Tel 03-3552-5656 (代表)

URL <https://www.token.or.jp/>

編集後記

暦の上ではもう春。徐々に日も延び、三寒四温を繰り返しながら暖かくなってくることでしょ。一方、本号の「現場で使える天気予報」コーナーによると、季節の変わり目はヒヤリハットが起きやすいそうです。衰えを感じながらまた一つ年を重ねる自身にとって、年度末に向け気を引き締め直すきっかけとなりました。